

僕らのいまとこれから～小さなまちで～

■ 事業のねらい

地域における青年活動が停滞する中、次代のまちづくりを担う青年層の人材発掘・育成を目的とする。また、この事業を通じて青年たちが自らの活動への意欲と情熱を高めるとともに、町内の青年たちとの新たな“つながり”から、自らの生活課題の解消や地域課題解決に繋がる活動を行うきっかけとする。



- 実施日 平成30年5月18日（金）
- 参加対象 町内在住の方
- 参加者数 46名 ※別紙参照
- 場 所 上土幌町生涯学習センターわか 会議室1・2
- 講 師 NPO法人 ezorock 草野 竹史 氏

1 事業内容

講話：今後、若者に求められる役割について

塾長である草野氏から、自身の体験を通じたモノの見方・考え方や若者の役割についてお話をいただいた。

まちづくりに関わる若者には、国連が示したSDGsの考えを知り、まずは目の前の諸問題に対して解決に向けた活動をしていって欲しい。そういった活動が、持続可能な活動として、後に世界の人々を救うような活動に発展していくことが理想と話された。



ワークショップ：僕らのいまとこれから

参加者から「疑問や悩み」について意見を吸い上げ、草野氏が対話形式で答えていくというワークショップを行なった。

参加者は事前に配付されたフリップに、それぞれの想いや疑問を書き、3人一組の班内で共有。その後、特に聞いてみたい事柄を草野氏や場に投げかけた。

「週末遊ぶ場所がない。みんな何してるの？」や「夢の見つけ方って？」のような身の回りのことから「事業を行うときの人集めてどうしてるの？」や「NPO法人を立ち上げたいと思っているがどうすれば？」等、具体的な活動についての質問等もあり、今後の青年活動の活発化を予感させるような有意義な時間となった。

最後に、草野氏は「早く行きたければ一人で行け、遠くまで行きたければみんなで行け」というアフリカのことわざを紹介した。この考えはまちづくりにはとても大切な考え方であり、個々人が協力してまちづくりに関わることで、一人ではできないようなことができていくのではないかと、参加者に投げかけ、次回への期待を膨らませた。



2 成果と課題

■ 成果

青年層向けの事業としては異例の約50名が参加するという事業となった。若者が毎日の生活の中で抱く様々な問題・悩み・不満等が背景にはあるのではないかと考える。この諸問題を新たな出会いやつながりから解決へと導く第一歩として有意義な事業となったのではないかと思う。

■ 課題・今後の方向性

講師と今後の方向性について、意見交換や共有する機会を早急に持つことが大切。また、今回何らかの思いを持ってくれた参加者に対する活動機会の発信や、フォローアップをいかに実践していくかが、今後の活動の鍵となると考えるため、既存の青年団体との連携を密にし、呼びかけを行なっていく。

